

< 感染性胃腸炎(ノロウイルス等) > ~ 経口感染 ~

感染性胃腸炎をおこす病原体にはロタウイルス、ノロウイルス、カンピロバクター属等、多くの原因物質がありますが、中でもノロウイルスは、11月から3月にかけての冬季を中心に、乳幼児や高齢者の間で多発する感染性胃腸炎の主な原因です。また、ノロウイルスは二枚貝の不十分な加熱調理や感染した食品取扱者から汚染を受けた食品などを原因に食中毒が発生し、近年、感染症、食中毒ともに発生が増加し、初夏にかけても集団事例として多くの発症が報告されています。

保育園、高齢者施設などの社会福祉施設では、利用者の介助や調理作業時等における手洗いの不備などから、感染症や食中毒が発生し、二次感染により被害が拡大することもあるので特に注意が必要です。

- 感染経路
- ★ 二枚貝類の生食(カキなど)
 - ★ ノロウイルスに汚染された食品や飲料水、器具
 - ★ 感染者の嘔吐物・糞便

※ 人の腸管内でウイルスが増殖し、患者のふん便やおう吐物には1グラムあたり100万から10億個もの大量のウイルスが含まれています。ノロウイルスは人の体外でも安定であり、感染力が非常に強く、10~100個の少ないウイルス量でも発病します。

潜伏期間：通常1~2日

症状：下痢・嘔吐・吐き気・腹痛などで、通常1~3日症状が続いた後、回復。

※ 高齢者・乳幼児では、嘔吐物が誤って気管に入り誤嚥性肺炎を起こしたり、のどに詰まって窒息することがあるので、注意が必要です。

※ ウイルスは症状が消えてからも、糞便中に排出されているとされています。

また、感染しても症状が出ない人もありますが、糞便にはウイルスが排泄されているので注意が必要です。

【予防対策処置等】

1) 「Ⅲ. 感染症発生時の対応」を参照してください。

2) 具体的な処理・消毒のポイント

少ないウイルス量の感染でも発病するため、便や嘔吐物などを処理する際は注意が必要です。おむつの処理も同様です。

- ◎ 使い捨てビニール手袋・マスク・ガウンを着用し、処理し終わったら手袋をはずし、石けんでよく手を洗うがいをする。
- ◎ ノロウイルスは塩素系消毒薬の使用又は、85℃以上1分間の加熱により感染性がなくなる。(消毒用アルコールや逆性石けんはあまり効果がありません。)
- ◎ ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、嘔吐物や糞便は速やかに処理する。

○ 感染性胃腸炎は5類定点把握疾患であり、定点医療機関から保健所へ週単位で報告することになっています。